

## 「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.28

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

### 復興の入り口から実質的な復興活動へ

この4月から、岩手大学三陸復興推進機構の機構長を務めることになりました。よろしくお願いたします。

先月訪れた釜石は、ビルの建設、土木工事などがあちこちで進められており、4月6日には三陸鉄道が南北ともに全線復活という嬉しいニュースもありました。震災から3年の年月で「ようやく」という気持ちとともに、生活感のない街並みに未だ復興の道遠しという思いも交錯します。ようやく復興の入り口が見えてきたという状況だと思えます。

平成25年度の本学の被災地復興の取り組みを振り返りますと、「復興の入り口」をようやく整備したと言えます。昨年4月には大船渡市に3つめのエクステンションセンターを設け、5月には釜石サテライトが新築移転し、合わせ

て三陸水産研究センターを開所しました。これらの拠点の人員、設備等もようやく充実してまいりました。平成26年度は、まさに、復興の入り口から実質的な復興活動を一步一步進めるときだと思っています。

このような中で、機構長の職責の重さを感じるとともに、復興推進に全力を尽くさなければならぬという思いを新たにしております。みなさまのご理解、ご協力をよろしくお願いたします。



岩手大学三陸復興推進機構長  
西谷 泰昭

### 岩手大学三陸復興推進機構の組織が変わりました

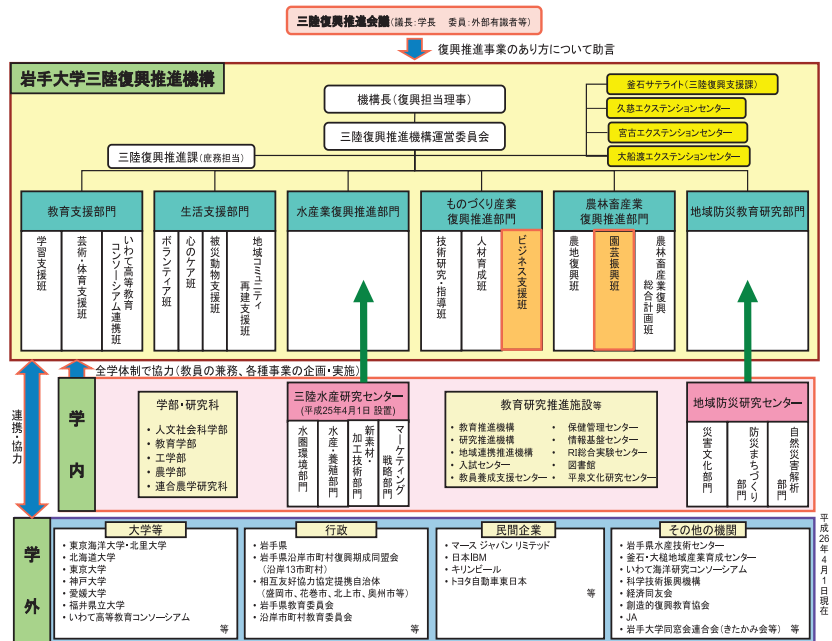
平成23年3月11日の東日本大震災発生以来、岩手大学は三陸地域の復興に向けた様々な取り組みを行ってきました。

平成23年10月には、岩手大学三陸復興推進本部（旧推進本部）を設置し、平成24年4月には旧推進本部を発展的に改組して新たに学則に基づく全学組織「三陸復興推進機構」を発足しました。

三陸復興推進機構は、教育支援部門、生活支援部門、水産産業復興推進部門、ものづくり産業復興推進部門、農林畜産産業復興推進部門、地域防災教育研究部門の6部門で構成され、これまで多様な取り組みを実施してきました。

しかし、震災から4年目を迎え、三陸復興のために本学に求められるニーズの内容も変化してきています。このような状況を受け、これまでの継続的な活動によって当初目指していた目標が達成できたと考えられる「文化財保護支援班」と「林業・林産業復興支援班」の活動を平成25年度で完了することにしました。また、被災地の新規創業者を支援してきたインキュベーション班は、ビジネスに関する様々なニーズに対応するため「ビジネス支援班」へと改編し、これまで被災地で園芸振興や畜産の支援を行っていた高収益型農畜産復興支援班は、新たな園芸の振興に力点を置き、「園芸振興班」となりました。このほか活動を継続していく班や部門についても、被災地復興の新たなフェーズに柔軟に対応していけるよう組織の見直しを行いました。

岩手大学三陸復興推進機構は、これからも被災地と深く関わりながら三陸地域の復興にオール岩大パワーで取り組んで参ります。



### SANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業報告会を開催しました

3月22日、岩手大学釜石サテライトを会場に、SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業報告会を開催しました。

岩手大学・東京海洋大学・北里大学の3大学は、従来の水産業に科学的根拠に基づく付加価値を加え、水産業の高度化や三陸水産品のブランド化を目指して「SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業」に取り組んでいます。

今回の報告会は、この事業の研究内容や成果について三陸地域の漁業関係者の方々にお知らせするとともに、公設試験研究機関をはじめとする関係機関の水産研究者との連携を促進することを目的に開催したものです。

成果報告では、サケの増養殖、三陸産ワカメのブランド化、冷凍水産物の品質評価技術、漁業協同組合の6次産業化という多様なテーマで報告が行われました。特に岩手県の重要水産種であるサケの増養殖に関する研究に

ついては、陸上養殖技術の開発や遺伝特性分析による沿岸サケ資源回復に貢献する系群の解明、腸内乳酸菌の利活用によるサケ稚魚の健苗生産など、様々な切り口で発表があり、今後のサケ資源回復につながる研究として期待されます。

今回の報告会には、漁業関係者をはじめ、沿岸自治体の職員や公設試験研究機関の研究者など、80名以上の方にご参加いただきました。質疑応答では漁業関係者からより効率的なワカメ加工機の開発に係るご質問をいただくなど、水産業の現場にサイエンスの要素を積極的に取り入れていこうという熱意を感じることができました。

岩手大学は、今後も引き続き三陸水産業の復興に向けた取り組みを積極的に展開していきます。

平成26年4月1日現在

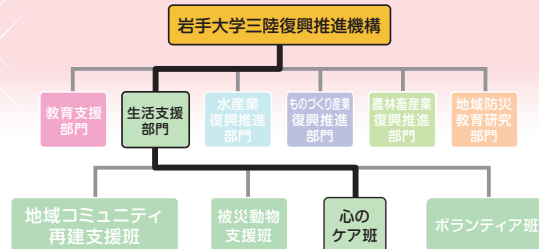
# 岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、津波被災地で被災者や支援者の方々に心理的なサポートを行っている、生活支援部門心のケア班の活動の一例をご紹介します。

## 三陸復興推進機構・第2回心のケア班市民講座「こころのじかん」を開催しました

岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門 心のケア班  
 山口 浩 (人文社会科学部 教授)  
 奥野 雅子 (人文社会科学部 准教授)

心のケア班では、被災された方々への心理的サポート及び支援者への支援を目的に活動を継続しています。具体的には、被災者仮設住宅への支援(リラクゼーション研修を含む)、支援者に対するメンタルケア研修、釜石サテライトにおける心の相談ルームの運営、岩手県教育委員会への協力で沿岸地区高校へのスクールカウンセラー派遣などを行っています。これらの活動の一環として、昨年度平成26年3月12日から3月21日にかけて、被災地での心のケア班主催市民講座「こころのじかん」を開きました(沿岸4地区、5回の開催)。内容は癒しのプログラムであるタッピングタッチ、被災児への保護者の対応、ユーモアと回復、傾聴訓練、リラクゼーション訓練をテーマに行い、全体で74人の参加者がありました。今回はその中で、班員の奥野雅子准教授が担当した「もっと笑いを！-ユーモアと回復-」を以下に紹介します。このテーマは陸前高田市の皆さんを対象に行いました。笑いの種類や効



能効果、笑い生起のメカニズムなどを心理学的に概説することで市民の方々に笑いについて改めて考えてもらい、生活に取り入れていただけるよう提案しました。笑いの効能は科学的にすでに実証されており、血液中のナチュラルキラー細胞を増加させて免疫力を高めます。一方、心理学的立場からの笑いの捉え方は、自分に起こった辛い出来事を「ネタ」にすることで、その事象と心理的距離を取るようになります。それは自己を「俯瞰する」という知的な作業です。これらの説明を踏まえ、笑いを生起させるコミュニケーションをどのように用いたらよいかを解説しました。最後に、南三陸町の方々が作られた「震災川柳」を紹介し、ユーモアを用い回復を促進したプロジェクトを紹介しました。

今後も心のケア班として、被災者の方々への心理的サポートや支援者支援を継続していきたいと考えています。



陸前高田市での研修の様子

# 釜石サテライトだより

「春のドカ雪」が降ったと思ったら、急に暖かな日が続くようになり、一気に春が近づいてきたように感じます。

今年度末に3名の職員が釜石サテライトを離れることになり、市内で送別会を開催しました。3名とも震災復興のため尽力してきましたので、彼らの功績を引き継ぎこれまで以上に復興に貢献していきたいと改めて思いました。

また、送別会の会場は、震災時に避難所として使われていた場所でもあり、そのような場所で行われた送別会はとても思い出深いものとなりました。

最近の釜石サテライトの活動状況について報告します。

### ●箱庭療法体験記

釜石サテライト内に開設されている「こころの相談ルーム」ではセラピーの一環として「箱庭療法」を行っています。

「箱庭療法」とは砂の敷かれた箱の中に自由におもちゃを並べることで言葉にすることが難しい心の内を表現し、心の問題の解決に繋げていくものです。

佐々木誠特任准教授の指導のもと、箱庭療法を体験する機会がありました。

砂の感触を楽しみながらおもちゃを並べていると、それだけでも子供のころを思い出し、なかなか楽しいもので、癒しになるように思えます。

並べ終わった箱の中の様子から佐々木特任准教授は何かを読み取ったようでしたが、あえてそれは聞かずにしておくことにしました。箱庭療法のあとは不思議と少し心が軽くなったような気がしました。



### ●調理器具が充実しました

釜石サテライトの「水産加工実験室」には、これまでに研究用の冷凍装置など特殊な実験装置はあったのですが、加工・調理実習などに使用する調理器具類が不足していました。

この度、釜石市からの委託事業を活用して各種調理器具や設備類を充実させることができました。今までは簡単な調理しか行えませんでしたこれで、色々な浜料理の創出や水産物の商品開発等を行う事ができるようになりますので、より多くの団体に活用していただければと思います。



電子レンジ、ミキサー、魚焼き機器など



鍋、ザル、フライパン、コンロなど

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

**連絡先** 岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト  
 〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1  
 TEL:0193-55-5691(代表)/FAX:0193-36-1610  
 E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp  
 URL:http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/

## Information

### 平成26年度岩手大学開学記念行事

日時：5月31日(土) / 会場：岩手大学総合教育研究棟(教育系)北桐ホール

#### ●特別表彰・特別講演(14:00～14:40)

アルペンスキー日本代表  
 大回転座位、滑降座位2冠 狩野亮さん(岩手大学卒業生)

#### ●地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”シンポジウム(14:45～16:30)

- ・政策説明(文部科学省)
  - ・事業説明(岩手大学理事(教育・学生担当)・副学長 丸山仁)
  - ・パネルディスカッション「地域の持続的発展を担う人材育成」
- パネリスト：堺茂樹(岩手大学長)、達増拓也氏(岩手県知事)、野田武則氏(釜石市長・岩手県沿岸市町村復興期成同盟会長)、高橋真裕氏(岩手銀行取締役頭取・岩手経済同友会代表幹事)

**お問い合わせ** 岩手日報社 広告事務局 「岩手大学シンポジウム」事務局 ☎019-653-4111  
 ■要事前申込/締切 5月19日(月) ■定員/150名(先着順)

### 編集後記

4月から岩手大学の役員体制が変わり、三陸復興推進機構でも機構長の交代や組織の見直しを行いました。

本学では震災からの3年間で復興拠点の充実を進めてきましたが、新たな体制でスタートした4年目の今年度も、復興への取り組みを更に展開してまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。